

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172600559		
法人名	株式会社 ナックス		
事業所名	グループホーム ぬくもりの家		
所在地	岐阜県揖斐郡大野町大字稲富712-1		
自己評価作成日	令和1年11月25日	評価結果市町村受理日	令和2年1月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairgokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2172600559-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和1年12月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは自然に囲まれた静かな環境にあり、シンボルツリーであるけやきの木の下で五感で季節を感じながら、ゆっくりした時間を過ごしていただいています。庭へ出て畑や花々を楽しんだり身体を動かしたり、お茶を飲みながら会話を大切にしています。日々の関わりで聞こえる利用者様の声を活かしたケアを心がけ、18通りの生活があることを職員は心得て支援に努めています。利用者様の体調に気を配り、主治医と連携をはかり看取りのケアにも対応しています。また、職員は毎月勉強会を重ねたり、外部研究にも積極的に参加しケアの質の向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、利用者それぞれの生活歴を把握し、自然豊かな環境の中で本人が望む暮らし方ができるように支援している。園庭でお茶を飲んだり、落ち葉の掃除や犬の散歩をしながら自由に過ごし、自家菜園で収穫した野菜を使った食事、利用者の希望や体調に合わせた献立を選択することができる。管理者は、利用者の体調変化に迅速に対応できるように、看護師を職員として配置し、24時間の医療連携を図りながら、利用者と家族が安心して毎日を過ごせるよう取り組んでいる。10年以上勤務している職員も多く、看取りケアについて学びを重ねながら、本人・家族に寄り添い、最期まで温かなケアの提供に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつでも運営理念を再認識できるよう名札に記入したり、施設内に掲示している。年度初めに運営理念を確認するための研修を行っている。理念にそったケアができるよう日々職員同士呼びかけをしている。	理念を掲示し、内部研修や全体会議で確認している。職員の名札にも明記し、「心おだやかな介護」をはじめ、運営理念を常に意識しながら実践している。新人職員の研修時や休憩時間にも、理念について職員同士で確認し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの公民館にグループホームのことを知ってもらおうとパンフレットを持って訪ねたりすることで徘徊時の防波堤につながっている。馴染みのスーパー、道の駅、公園を利用して地域とのつながりを続けている。	利用者と職員が、畑作りや野菜の収穫を行う際に、近所の人と挨拶を交わすことも多く、地域との交流につながっている。認知症についての理解が得られるよう、高校での講義を行ったり、夏休みの時期には、学生ボランティアの受け入れを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期で開催している運営推進会議で民生委員の方に出席していただき、認知症について理解してもらうために事例を発表したり、取り組みを発表している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では民生委員、行政職員、他グループホームの管理者、利用者またはご家族の参加があり活動状況を報告している。意見交換をすることで地域での行事に参加できたり、高齢者の状況を知ることができるなどサービス向上につながられている。	運営推進会議は、関係機関の職員や、他法人のグループホーム管理者も出席し、互いのホームを行き来し、意見交換や情報を共有している。また、職員研修の報告と合わせて参加者に研修資料を配布し、研修内容について話し合いながら、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認知症の方の入居に関する相談や、紹介していただいた方の生活の様子をお伝えしている。町内のケア会議で事例発表をする機会をもらうなど連携をしている。	行政主催の研修案内や認知症カフェの開催依頼などがあり、協力関係にある。また、地域包括支援センター職員の訪問もあり、地域高齢者の実情を聞いたり、相談等で常に連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロを目指し、支援の方法を日々考え取り組んだり研修を開き、職員の意識を高める努力をしている。また、防止委員会を定期的で開催している。現在は該当する方はおらず、見守り強化をしている。今後も専門職として努力したい。	身体拘束適正化委員会を開催し、後日、職員全体会議で情報を共有している。せん妄による徘徊行動のある利用者には、洗濯物置みなど職員と一緒にできる事を見つけ、見守りを行っている。リーダーを中心に言葉の拘束についても話し合い、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修を行い、法律について理解できるようにしている。職員のストレスとならないように雰囲気作りをしている。虐待を見過ごさないよう、施設長、管理者は特に注意している。		

岐阜県 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法令順守について研修を行っている。成年後見制度についても研修を行い、理解できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に文書を読み合わせ説明している。不安、疑問点について聞き、理解していただいている。不明な点については、いつでも連絡して頂けるよう話をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に担当者会議への参加を呼びかけたり、面会時に担当者が意向や要望を伺うなど努めている。また、家族交流会に多数参加していただき、ゆっくり思いをを聴ける機会ができたので、運営やケアに反映させていきたい。	家族向けの「近況報告書」は、写真や「できごと」の報告を増やし、家族からも見やすくなったと好評を得ている。年間の研修予定も、家族からの意見や要望を真摯に受け止め、接遇研修を増やしてケアの質の向上につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は毎月開かれる職員全体会議に参加し、職員と意見交換している。また、管理者会議を毎月開催し各事業所の意見や困難事例の検討を行い改善点を見つけ運営に反映させている。	管理者は、日常的に現場に入り、職員の意見や要望を聞いている。また、緊急時や職員の個人的相談も、直接、携帯で受ける体制を取り、迅速な対応と共に、働きやすい職場環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の実績や勤務状況などを総合的に判断し、役職を決めたり希望の勤務時間で無理なく働けるように考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画にそって知識、技術ともに職員一人ひとりの質の向上ができるように研修している。外部研修にも積極的に参加し、働きながらスキルを高められるように勤めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	郡内の施設職員が参加する研修会で交流したり、町内のグループホームと合同運営推進会議を開催したりとお互いに意見交換する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前にアセスメントを取り、利用者様の身体、精神状況を把握し、困っていること、不安なことなどを伺い安心して入居できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご本人、ご家族と話をする機会を設け、入居までの経緯を伺っている。不安や悩み、要望なども伺い、入居後の支援の方向性を話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の要望、現状を含め必要に応じた支援と一緒に相談しながら見極めている。また、必要であれば他サービスの利用調整を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	経験豊かな人生の先輩として過ごせるように認識している。研修で認知症についての勉強会を行い、できることを活かした生活ができるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居されてからもご家族にしかできないことをお願いし、協力していただいている。ケアプラン担当者会議に出席して頂き、一緒に支援するという意識を確認している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、ご親戚、ご友人の面会はゆっくりとお話していただき馴染みの関係を継続しやすいように努めている。また、馴染みのスーパーや喫茶店等に外出したりご家族と相談し自宅へ行ったりと慣れ親しんだ習慣を大切にしている。	家族や友人の来訪時には、茶でもてなし、ゆっくり利用者とお過ごせるよう雰囲気作りを心掛け、再来の声掛けをしている。菜園での作業では、馴染みのボランティアの協力を得たり、スーパーや喫茶店に出かけ、地域住民との関係継続を支援している。	利用者の馴染みの関係継続に努めているが、自宅訪問や外出が困難になった友人に会いに行きたい等、個別の希望に応える方法を検討している。事業所の福祉車両を使用したり、家族の協力を得るなど、希望の実現に期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の時間を気の合う方と楽しんでいただいている。季節の行事は全員の方が参加してもらい、利用者様同士の関係を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、必要に応じて相談支援を行うことを退居時に伝えている。また、実際に困りごとがあり相談にいらっしゃるご家族もおり、支援の継続に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に今後の暮らしの希望を伺い暫定ケアプランを作成し入居と同時に意向に沿った支援ができるようにしている。また、ご本人の意向を伺うのが困難な場合はご家族と相談したり、本人の状態を考えて検討している。	利用者のこれまでの生活パターンを崩さず、思いに寄り添いながら、やりたいことができるよう支援している。利用者の状態変化や隣室とのトラブルがあった時は、本人や家族、同法人事業所とも話し合い、部屋の移動を検討する等、利用者にとってより良い環境となるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活を伺いながらアセスメントを作成し情報共有している。馴染みの人や物、場所、食べ物等を把握し、サービスを提供する上で活用することで利用者様の生活の質を上げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のできること、できないことを把握し自立支援を行っている。個々で生活習慣が異なるため一日の流れも違うので、職員は利用者様の状況に合わせ支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護記録簿を利用しプランの経過を確認したり、モニタリングを行っている。サービス担当者会議で現状を伝えこれからの課題を話し合い、利用者様の意向を中心に関係者でケアプランを作成している。	モニタリングの際に、医師の指示書を参考にしながら、出来る事やリスクを考慮し、利用者ニーズの優先順位を検討している。また、本人の楽しみや役割、静と動の時間の使い方に配慮しながら、毎日、バランス良く生活が送れるよう、計画作りを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきやケアの実践は介護記録簿に個々に記録している。それを職員で情報共有しながら利用者様にあった支援を共通して行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況やニーズに合わせて、支援できるよう柔軟な対応を心がけている。既存のサービスにないニーズも試行錯誤し対応できるように努めている。		

岐阜県 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのスーパー、コンビニ、診療所、警察、消防署等の地域資源を利用者様と活用している。また、慣れ親しんだ方も地域資源と考え関係を継続できるよう働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様の希望でかかりつけ医を決めている。ご家族の協力を得て地元のかかりつけ医を選択される方もいらっしゃる。当ホームのかかりつけ医は月2回の往診を行い、健康管理をしている。	協力医とは24時間連絡が取れる体制である。往診時には職員も立ち会い、利用者の状態や薬の確認など行っている。また、看護師職員の存在も、利用者や家族の安心につながっている。希望により歯科医の往診もあり、整形外科への通院は、家族または職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良の方、寝たきりの方は、看護師、介護職員が協力して介護している。往診時は立ち会い、日常の様子を伝え、適切な医療が受けられるよう連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には介護サマリーを提供し、安心して治療ができるようにしている。退院時にはカンファレンスを開き、早期に受け入れができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前に指針を説明し理解を得ている。実際に重度化や終末期を迎えた時は、医師とともにご家族と話し合いを行い、希望にそった最期を迎えられるようにチームで方向性を確認している。医師とは24時間体制で連携し、看取りケアに取り組んでいる。	重度化や終末期には、最後までその人らしく過ごせるよう、利用者の好きな洋服を選んだり、口からの摂取を支えるなど、心を込めて支援している。看取り時には、家族が休める部屋を用意したり、居室にソファを入れて、最後まで一緒に過ごせるよう配慮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時など様々な場面を想定して適切な対応ができるよう研修を行っている。連絡体制も見やすい場所に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の災害訓練を、消防署のご指導の下に行っている。夜勤者が集まり夜間想定した訓練も行っている。地震、火災、水害、土砂崩れ、台風等の想定をしたり備蓄を用意している。地域の方にも参加をお願いし、災害時には近隣の方に協力依頼をしている。	消防署立ち会いの災害訓練は、様々な場面を想定して実施している。消火器の使い方や避難経路の確認、備蓄品の相談など、振り返りを含めて行っている。台風襲来の際には、情報を確認しながら、ポータブルトイレの個数確認、薬を多めに備蓄するなど、災害時に向けての対策を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員研修を行い、プライバシーや尊厳を尊重した介護をすることを話し合っている。お互いに言葉使いや態度を注意し合い丁寧な対応を心がけている。また、着替え、入浴、排泄時には特に気を付けて介護を行っている。	利用者の性格や生活歴を考慮しながら、その人に合った声掛けや対応を行っている。特に、言葉遣いについては、接遇研修でも学び、職員同士で注意し合っている。居室に入る時はノックをし、排泄時のプライバシーを守るため、トイレにはカーテンを付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服選びや入浴の有無、レクへの参加などご本人の希望を伺い尊重している。意思表示できない方には表情や仕草をみながら決定している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりの習慣を把握し、職員はその時間に合わせ介護に取り組んでいる。また、日々の気分や体調に合わせて支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの洋服や帽子を持ってきていただき、その人らしいおしゃれを楽しんでいる。女性の方は口紅をつけたり、好みのヘアスタイルにされたりといったこだわりを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬な食材を使うことを心がけ、ホームの畑の野菜を育て、収穫し、調理の下ごしらえまでを手伝っていただいている。好き嫌いを伺い食材を変更したり、好みの飲み物を提供することで食事が楽しみなものになるように努めている。	菜園の野菜を使いながら、手作りの食事を提供している。朝食はパン又はご飯を基本として選択できるが、お粥、うどん、ラーメンを選べる事もでき、個別に対応している。また、ホットケーキやお好み焼き等、おやつ作りも利用者の楽しみの一つとなっている。居室で食べたい利用者の希望にも応じている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの必要な食事量、水分量を把握して提供している。食事形態も嚥下に合わせて調理している。できるだけ、自立して食事ができるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、口腔状態を確認している。義歯が合わない時などは早めに歯科医師に相談している。		

岐阜県 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事前、食間などご本人の排尿の感覚によって支援を行っている。ご自分で行ける方は声をかけ、ご自分で困難な方は介助し、変わらぬ排泄習慣を維持している。	職員は、利用者一人ひとりの排泄状況を把握し、時間や行動を把握しながら、声かけや見守りで排泄の自立を支援している。職員の継続した取り組みにより、紙パンツから布パンツへ改善した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便は毎日確認し、便秘の方は運動、水分を促して予防に取り組み、また、主治医に相談して個々に合った薬や漢方を使用している方もみえる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりゆっくり入っていただけるよう声をかけ、その日の体調や希望時間に合わせ入浴支援している。また、自分で入浴できる方は事前に室内温度やお湯の設定をし、安心に入っていただけるように見守りしている。	利用者の状態に合わせて、個浴による入浴支援を行っている。入浴介助の際には、昔話しや利用者の本音を聞けることもあり、コミュニケーションを図りながら、入浴できるよう支援している。入浴後は体重測定と共に、傷やあざがないか、身体的チェックを行い、体調の変化にもすぐに対応できるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠していただけるように日中の活動を支援し、季節ごとに気温の変化、部屋の温度等を管理し、夜間の定期的な見守りしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師や管理者が一人ひとりの薬を管理し、理解に努めている。毎食ごとにおぜんに出し、名前を確認し、食事の後は飲み忘れのないよう確認している。薬の副作用がある時はすぐ医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	庭の手入れや草取り、野菜の植え替え等ができる方に参加して手伝ってもらっている。また、その人に合った活動に参加していただき楽しみを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には散歩のできる方は散歩に行かれたり、庭に出て過ごすなど、本人の希望に沿って行っている。また、喫茶店やスーパー等へ外出支援したり、ご家族の協力を得て自宅や馴染みの食堂へ行ったりと戸外に出かけられるように支援している。	広い園庭には、テーブルやイスが置いてある。秋には落ち葉の掃除をしたり、天気の良い日は、お茶を飲んだり、歌を歌って楽しく過ごしている。また、事業所で飼っている犬の散歩で、日常的に戸外に出ている。おやつや服などの買い物は、個別に支援している。	

岐阜県 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことによって気持ちが落ち着く方は、少しの金額を財布に入れお持ちになっている。ご自分の好きな物を買に行く等支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや年賀はがきなどご自分で書ける方は書いて頂き、ご家族に送っている。その他の利用者様は職員が代筆で思いを届けている。電話の時は利用者様の思いを職員と一緒に伝えしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は心地よく生活できるように、季節の飾りつけや花々を飾ったり自然の光を取り入れて落ち着いた空間作りに努めている。快適な室内温度に気を付け換気をこまめに行うことで空気を清潔にすることに心がけている。	ユニット間には渡り廊下があり、自由に行き来ができる。夏は風通しが良く、冬は防風用シートで寒さを防ぐ工夫をしている。リビング以外にも、空いているスペースにテーブルや椅子を置き、編み物をしたり、テレビを観るなど、利用者が好きな場所で、自由に過ごせる環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が気分によって庭のテラスで過ごされたり、フロアでテレビを観られたり、気の合った方と談話されたりできようテーブルセットやソファを配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に持って来られた思い出深い物や家族様の写真、四季折々に咲いた花などを飾り居心地の良い居室作りをしている。安全で好みの家具配置を考えたり、居室にテーブルセットやソファを設置することで活動しやすいように工夫している。	居室の床には、絨毯や畳を敷いたり、テレビや冷蔵庫を持ち込む事もできる。季節の花を飾ったり、家族の写真や自分の作品を置くなど、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており、車いすや杖歩行の利用者様も移動しやすいようになっている。また、認知症の方が自室やトイレを認識しやすいようにドアのカラーを変える等の工夫をしている。		